

2023年5月12日

2023年度の鉄道事業設備投資に総額380億円

～ 防犯カメラの全駅・全車両への設置完了をはじめ、
引き続き「安全性の向上」と「サービスの向上」を進めます ～

京王電鉄株式会社（本社：東京都多摩市、取締役社長：都村 智史）では、京王グループ理念である『信頼のトップブランド』の確立を目指し、「住んでもらえる、選んでもらえる沿線づくり」を進めています。鉄道事業においては、お客さまや沿線にお住まいの方に信頼され、愛される鉄道になるため、「安全性の向上」や「サービスの向上」に取り組んでいます。

2023年度も引き続き、「日本一安全でサービスの良い鉄道」の実現を目指し、駅・車両の安全対策や連続立体交差事業を着実に推進するほか、自然災害への備え、バリアフリー設備の整備などお客さまの利便性向上施策に取り組むなど、安全で快適なサービスの提供を目指して、総額380億円の設備投資を行います。

【主な取り組み】

1. より高度な安全・安心の追求

- (1) 防犯カメラの設置など車両・ホーム上における防犯・安全対策
- (2) 京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業の推進
- (3) ホームドアや段差隙間対策などホーム安全対策
- (4) 踏切道における安全対策
- (5) 自然災害への対策

2. お客さまニーズを先取りしたサービスの提供

- (1) 座席指定列車の追加導入と運行拡大
- (2) お客さま案内機能の強化
- (3) 駅施設のリニューアル

3. さらなる社会貢献を通じた地域・社会との共生

- (1) 省エネルギー施策の推進
- (2) カーボンニュートラルを実現した環境負荷の低い機器への更新

4. 未来を見据えた盤石な事業運営体制の構築

- (1) DXを活用した業務省力化等の推進
- (2) 職場環境改善施策の推進

1. より高度な安全・安心の追求

(1) 防犯カメラの設置など車両・ホーム上における防犯・安全対策

2021年に京王線布田駅～国領駅間を走行中の車内で発生した傷害事件を受けて、リアルタイム伝送機能を持つ車内防犯カメラの全車両への導入を2023年度に完了します。また、リアルタイム伝送機能を持つホーム上防犯カメラも2023年度に全駅設置します。(2022年度末時点の設置状況は、車内防犯カメラが656両／877両、ホーム上防犯カメラが21駅／69駅です。)



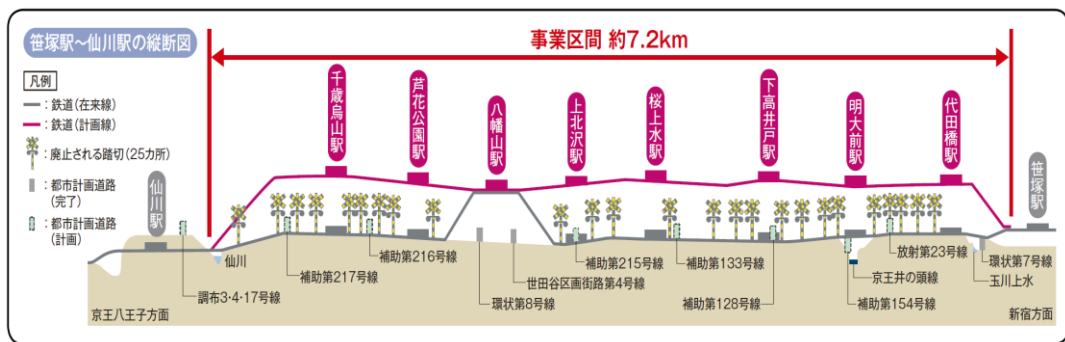
《ホーム上防犯カメラ》



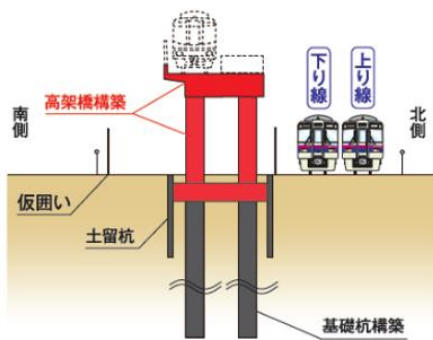
《車内防犯カメラ》

(2) 京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業の推進

事業主体である東京都および世田谷区・渋谷区・杉並区とともに、京王線（笹塚駅～仙川駅間）連続立体交差事業を実施しています。2023年度は、引き続き用地取得や仮線準備工・高架橋の構築などを進めます。この事業が完了すると、笹塚駅から仙川駅間の約7.2kmが高架化され、25カ所の踏切が廃止されます。これにより、道路と鉄道それぞれの安全性が向上するほか、交通渋滞の解消や、鉄道によって分断されていた地域の一体化が図られます。



《事業区間の断面図》



《高架橋構築（断面図）》



《一部完成した高架橋躯体（明大前駅付近）》

(3) ホームドアや段差隙間対策などホーム安全対策

① ホームドア

お客さまのホームからの転落やホーム上での列車との接触事故を未然に防止するため、京王線は2030年代前半、井の頭線は2020年代中頃の全駅の整備を目指します。2023年度は笹塚駅（2・3番線）や神泉駅などの整備を進めます。



《笹塚駅4番線ホームドア》

② ホームと車両の隙間対策

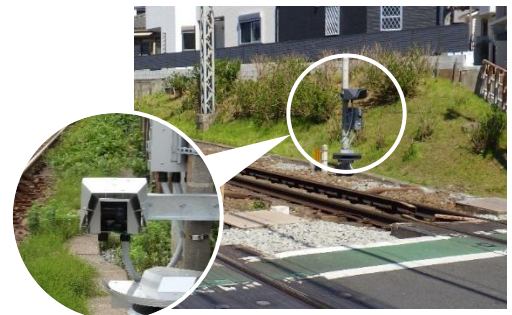
ホームと車両の隙間を縮小するため、ホームドアの整備に合わせて全駅で対策を進めます。2023年度はホームドアと同様、笹塚駅（2・3番線）や神泉駅などの整備を進めます。



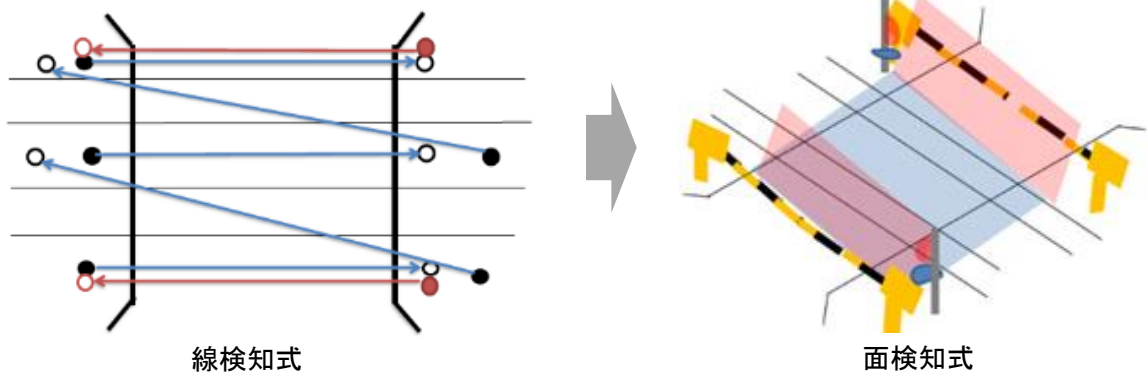
《転落防止ゴムの整備》

(4) 踏切道における安全対策

踏切道内の安全性向上を図るため、障害物検知装置を従来の線検知式から精度の高い面検知式に更新する工事を進めます。2023年度は飛田給11号踏切道と南平1号踏切道において実施します。さらに、富士見ヶ丘2号踏切道、久我山3号踏切道および三鷹台2号踏切道において障害物検知装置の新設工事を実施します。



《障害物検知装置（面検知式）》



線検知式

面検知式

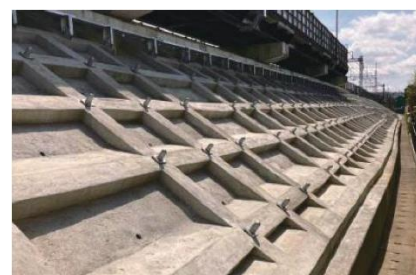
《踏切障害物検知装置更新イメージ》

(5) 自然災害への対策

大規模地震に備えて、鉄道施設の耐震性を向上させるため、高架橋や盛土区間、トンネル部（新宿駅～笹塚駅間）などの耐震補強工事や、コンクリート製の電力柱を地震に強い鋼管製の電力柱に更新する工事を引き続き実施します。



《高架橋耐震補強工事》



《盛土区間耐震補強工事》

2. お客様ニーズを先取りしたサービスの提供

(1) 座席指定列車の追加導入と運行拡大

お客様の着席ニーズにお応えすることを目的に、2018年2月から運行を開始し、ご好評いただいている座席指定列車「京王ライナー」のサービス拡充を図るため、5000系新造車両1編成（10両）を増備します。また、昨年度に増備した車両と同様、リクライニング機能付きロング/クロスシート転換座席を搭載します。



《リクライニング機能》



《5000系車両（外観）》



《5000系車両（内装）》

(2) お客様案内機能の強化

通常時は電車の発車案内や各種情報を表示する他、事故や災害などで列車の運行に遅延などの支障が発生した異常時には、支障区間や振替輸送経路などを視覚的に分かりやすく表示する「お客様案内ディスプレイ」について、外国語による表示を可能とする多言語対応と異常時のお客様への案内機能を向上させた多機能化を進めます。2023年度は聖蹟桜ヶ丘駅など20駅に導入します。また、府中駅や京王多摩センター駅などにおいて、行先案内盤を従来の4色表示からマルチカラー型に更新し、視認性を向上させます。

《多言語対応のお客様案内ディスプレイ（イメージ）》



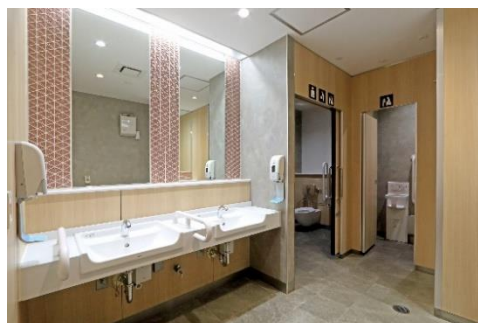
《従来の行先案内盤》



《マルチカラー化した行先案内盤》

(3) 駅施設のリニューアル

新宿駅新線口改札内のエスカレーターについて、老朽化に伴う更新工事を進めます。また、より快適にご利用いただけるよう下北沢駅のホーム上屋の改修や府中競馬正門前駅・神泉駅・南大沢駅で旅客トイレのリニューアル工事を実施します。



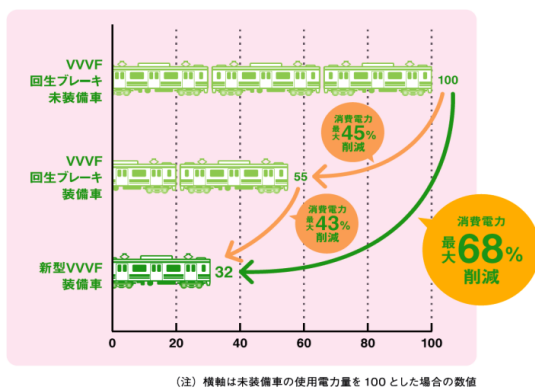
《旅客トイレリニューアル（平山城址公園）左：外観 右：内観》

3. さらなる社会貢献を通じた地域・社会との共生

(1) 省エネルギー施策の推進

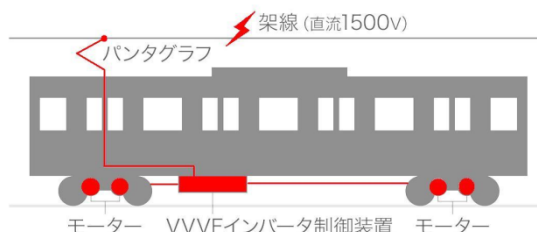
① 省エネ運転や回生電力のさらなる有効活用などによる省エネルギー施策の推進

より省エネ性能の高いVVVFインバータ制御装置への更新を行い、運転用電力を削減します。2023年度は、京王線8000系3編成(26両)の工事を実施します。また車両機器情報データを活用し、京王線での省エネ運転の導入を進めます。



VVVFインバータ制御装置

電車の加速力や速度に応じて、電圧や周波数を変化させながらモーターを効率よく動かす装置



《8000系車両の消費電力削減効果（1編成あたり）》

② 照明の省エネルギー化

駅構内の照明のLED化を推進します。2023年度は永福町駅や南大沢駅などのホーム・コンコース照明のLED化工事を実施します。



《駅構内のLED照明》

(2) カーボンニュートラルを実現した環境負荷の低い機器への更新

変電所の変圧器の更新に際し、植物油を使用し、環境負荷が低い機器に置換えます。これにより、従来に比べ約65%の二酸化炭素排出量を削減することができます。2023年度は長沼変電所の機器更新にあわせて実施します。

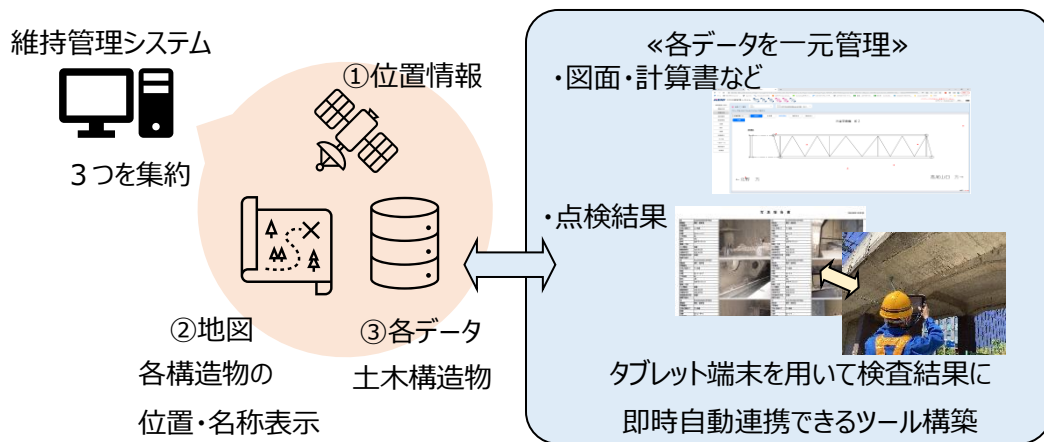


《環境配慮型の変圧器》

4. 未来を見据えた盤石な事業運営体制の構築

(1) DXを活用した業務省力化等の推進

土木構造物や電気設備の維持管理業務デジタル化に向けて検査システムの構築を進めるほか、車両機器情報を活用した故障時の復旧時間短縮に向けた取り組みを進めます。



《土木構造物や電気設備の維持管理業務デジタル化イメージ》

(2) 職場環境改善施策の推進

安全の要である人財の育成・安定確保に向けた社員のモチベーション・エンゲージメント向上の取組みとして、老朽化した駅係員仮眠室の改修など職場環境の改善を進めます。また、設備投資に係らない取組みとして、想定外の事象に対応するための訓練の実施やオンライン学習システムを活用した教育体制の推進など、鉄道係員への教育・訓練の拡充を図ってまいります。

【参考】SDGsへの取り組みについて

SDGs (Sustainable Development Goals) は、持続可能な世界を実現するために、2030年に向けた開発目標です。

京王グループは、この持続可能な開発目標を取り入れ、事業活動を通じて社会の持続的な発展に貢献していくことを目指します。